



Tanabe East Rotary Club in 2015-16

2015-16年度RI会長: K.R. ラビンドラン
 第2640地区ガバナー: 辻 秀和
 創立: 昭和49年5月15日
 会長: 坂本 正人
 幹事: 畔田 実
 会報: 本田 耕二 委員長

例会場/事務所: 田辺市下屋敷町81-10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
 http://tanabe-east-rc.com/
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会: 毎週水曜日 12:30~
 ビジターフィー ¥2,000



世界へのプレゼントになろう

○本日の唱歌

「君が代」 「さくら」

唱歌委員 伊藤 博之君



○本日のお客様

■小松 雅也様



■青少年交換留学生
 Anggun Yurna Nudesia



○報告 青少年交換留学生 アンガン ユルナ ヌデシア

こんにちは、これから私の発表を始めます。二週間の春休み、私は坂本会長の家に住んでいます。坂本家は本当に優しい家族。私は本当にうれしかったです。3月29日から31日まで私と御坊RCのドイツの留学生と彼女のホストお母さんは京都に行きました。その三日間私たちは幾つかの神社に行ってきました。金閣寺、しょうあん寺、平安寺、清水寺と伏見稲荷大社、に行きました。世界の春休みと、今から日本の桜の花が咲くので、非常に多くの外国人がありました。アメリカ、ヨーロッパ、アジアから、誰が日本人か誰が外国人か、全然みえません。しかし、すばらしいかんじ、楽しももらいました。4月3日、私と坂本会長と山本さんと数人のロータリアンは串本に行きました。歩くと桜を楽しみました。雨にも関わらず、その日の桜はきれいでした。今までもたくさんの事がいただきありがとうございます。3か月前に私はインドネシアに戻りますので、今からもどうぞよろしくお願いします。

○出席報告

会員数46名 義務免除 4名 本日の欠席者 16名
 本日出席率 61.9% 3月23日の修正出席率 90.48%

○にこにこ報告

(敬称略)

◇小松雅也様をお迎えて

後藤信博・橋本隆・木村壽一・小山實・中嶋伸和
 西谷次彦・岡本博・沖史郎・佐田一三・武田静也
 竹村英一・谷本司・玉置和男・上原俊宏・山本巨
 吉田和枝・吉本正美

◇久しぶりに京都で都踊りを見
 きました。桜もきれいでした。

中川文恵



◇やわらかな光に新緑が輝き、色
 とりどりの花が咲き、桜が咲く
 この4月が一年で一番好きです。
 願わくばこの月の花の下で死に
 たいです。 谷中順次郎



◇ごめんなさい、早退します。
 よろしくお願いします。

野村憲司



◇お花いただきます。

吉田和枝



◇奥様誕生日 片井貢

佐田一三



○会長報告

会長代理 佐田 一三



■本日のお客様は、小松雅也様をお迎えしています。後ほど宜しくお願い致します。

■もう一組、お客様をお迎えしています。青少年交換留学プログラムにより、8月21日にインドネシアから来日されたAnggun Yurna Nudesia様です。ユルナさんは倉山さんの家にホームステイされ、熊野高校に通学されています。3月24日～4月10日まで高校の春休みになりますので、坂本会長の自宅で預かって頂いています

■本日4月6日(水)、新宮ロータリークラブ創立60周年 記念例会・祝賀会に会長と幹事の2名で出席して参ります。そのため、当クラブの例会は佐田副会長と谷本次期幹事が代理を務めさせていただきます。ご協力よろしくお願ひ致します。

■3月20日(日) 和歌山県JAビルに於いて、2016-2017年度 会長エレクト研修セミナー (PETS) が開催されました。会長エレクトの山本亘君に出席して頂きました。私、坂本正人は次期ガバナー補佐として出席して参りました。ご苦労様でした。

■3月26日(土) テクスピア大阪に於いて、クラブ奉仕関連委員長会議が開催されました。クラブ奉仕A部門委員長の山本亘君と、クラブ奉仕B部門委員長の私、佐田一三が出席して参りました。ご苦労様でした。

■4月2日(土) 紀南文化会館 小ホールに於いて、午後6時～IM 1組 7クラブ合同例会、午後6時30分～8時まで、国際ロータリー第三ゾーン (RRFC) 講演会を開催致しました。日本国際ボランティアセンター パレスチナ事業現地調査員 ガザ事業担当 金子由佳氏の講演会です。多数の一般の方にも無料で聴講していただき、盛大に開催する事ができました。会員の皆さんにも、多数の方にお手伝い頂き、出席して頂きました。有難う御座いました。

○幹事報告

幹事代理 谷本 司



■例会日時変更

◎御坊東RC

4月6日(水)→4月6日(水) 19:00～
場所: 橘家 <有田2000RCとの合同例会>
4月27日(水)→休会

◎高野山RC

4月15日(金)→4月17日(日)
<高野山ロータリークラブ創立30周年記念例会>

◎和歌山中RC

4月22日(金)→4月22日(金) 19:00～
場所: ルミエール華月殿 <フリートーキング>

■メイクアップ

◎3月28日(水) ワールド大阪ロータリーEクラブ
前田吉彦君

◎3月26日(土) クラブ奉仕関連委員長会議
佐田一三君、山本亘君

◎3月29日(火) 第11回田辺東ロータリーカップ ジュニア
ゴルフ大会

本田耕二君、泉房次朗君、野村憲司君、佐田一三君、坂本正人君、武田静也君、玉置和男君、渡口眞二君

◎4月6日(水) 新宮RC創立60周年 記念例会・祝賀会
畔田実君、坂本正人君

■回覧

◎「英語版ロータリアン4月号」

◎公益社団法人 白浜・田辺青年会議所
「JCニュース2016年3月号」

◎社会福祉法人 やおき福祉会・やおき後援会
「やおきジャーナル71号」

◎公益財団法人 米山記念奨学会
「公益財団法人 米山梅吉記念館 館報27号」
「『賛助会員』への入会及び『100円募金運動』」
「『春季例祭』のご案内」

◎南方熊楠顕彰会より
「熊楠ワークス第47号の送付についてのご案内」
「熊楠ワークス第47号」
「第26回 南方熊楠賞 授賞式 開催のご案内」
(5月7日(土)午後1時30分～)
「南方熊楠顕彰館 平成28年度 開館カレンダー」

◎2015-2016年度 辻ガバナー事務所より
「クラブ国際奉仕委員長会議のご案内」
「2016年ソウル国際大会についてお知らせ」
「ジャパンナイト 送金明細書」
「ソウル国際大会日本人朝食会について」
◎2015-2016年度 福井ガバナーエレクト事務所より
「会長エレクト研修セミナーご出席の御礼」
「2016-2017年度のための地区研修・協議会時の質疑応答について」 「第1回ガバナー補佐会議のご案内」

■連絡

◎ロータリーの友4月号が届いています。

◎4月のロータリーレートは 1ドル=116円です。

四つのテスト: 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

「引き裂かれた青春」・・・特攻で散った兄・・・

戦後70年 特攻隊員親族の思い

美浜町

小松 雅也 様



- 兄 中西伸一 生い立ちから特攻志願まで
- 思いがけない一夜
- 村の空からお別れ
- 家族への最後の手紙
- 「出撃」敵戦艦への突入
- 静岡から訪ねてきた人
- 母が初めて泣いたとき
- 1036人それぞれの悲劇を乗せて（知覧基地より）
- 悲劇を繰り返さぬために
- 命の重さ
- 「人の命は海よりも深く、地球よりも重たし」

3 総合 15版 平成27年(2015年)7月29日 水曜日

「今の平和は兄たちがいたから」

特攻

一面前から続へ

昭和30年夏、中西家に一通の手紙が届いた。差出人は関東地方に住む母親の女性だった。手紙には「伸一さんのお墓参りをさせてほしい」とあった。両親は一緒に墓参りをしたが、女性は墓参りの理由を一切、明かさなかった。数年後、母親の時代さんが墓参りをした際、この女性が墓前で手を合わせて何かを話しかけていた。1時間近く、腰を上げて女性に近づくと、「今日は伸一さんと2人で話をしたいことがあるので」と言ったものの、それ以上は口をつぐんだ。女性はその後、平成20年代初めまで何度も墓参りをしたという。女性が「実は一種になりたかった」と明かしたのは何年もたってからだった。昭和20年、中西伸一少尉は26歳、女性には16歳。書店で出会い、話をするようになった。当時の単なる憧れだったが、時間がたつにつれて、憧れ以上の気持ちに気づいたという。忘れられない人だから墓参りを続けていると言った。

平成8年5月3日、知覧で開かれた慰霊祭の際、少尉の弟の小松雅也さんはこの女性を誘い、少尉の遺品を特攻隊員の手紙に納めることになり、合流した女性は「軍服を脱ぎ、腰を上げて女性に近づくと、『今日は伸一さんと2人で話をしたいことがあるので』と、それ以上は口をつぐんだ。女性はその後、平成20年代初めまで何度も墓参りをしたという。女性が「実は一種になりたかった」と明かしたのは何年もたってからだった。昭和20年、中西伸一少尉は26歳、女性には16歳。書店で出会い、話をするようになった。当時の単なる憧れだったが、時間がたつにつれて、憧れ以上の気持ちに気づいたという。忘れられない人だから墓参りを続けていると言った。

少尉の思い永遠に引き継ぐ

5月3日、鹿児島県南九州市の知覧平和公園で行われた「知覧特攻基地戦没者追悼式」で、遺族を代表して慰霊の言葉を述べる中西伸一少尉の弟、小松雅也さん（鈴木健児撮影）

抱いて寝たんですよ。切ないです」と振り返った。女性は特攻に関する証言集に自分の思いを投稿していた。「『ごへんげの』私の間に彼は、そいだよと目で、広げてあった新聞を見て、新聞の一面には、仲睦と題文であった。そして、決戦の文字が躍っていた。『俺だって、生きていたい。略：』と、つややく後に書いて生きていて。思ってもいな言葉を終えた。この最後の言

葉は今も私の胸の中に、熱い生への執着を絶ち切った死地へ向かった一人の青年の、凝縮された哀しみとして重く残っている。

女性には証言集の中で少尉から届いた手紙を紹介している。手紙には「もう手紙を書かないで下さい。あなたがいれば書きません。近日中に故郷の和歌山へ行くことと思っています。それが実現出来なくて残念です。さようなら」とあった。

最後に女性は知覧の特攻平和会館に飾られた遺影の前に「お久しぶりねえ」といつまでも若いね」と無言で問いかけたと記している。女性の戦後は終わっていないのだ。

少尉が上空から故郷に最後を告げた時、一度は教鞭を握っていた和国民学校の上空も舞っている。教員たちは運動場で手を振り別れを告げた。

「知覧の三角兵舎を初めて訪ねたとき、出撃前後の兄貴の気持ちはどうだったんだろう。母親や故郷を思い出したんだろうと思うと、涙が止まらなくなりました。」

戦時中は特攻出撃する兄を当然のように応援していた小松さんも、戦後70年がたった今はこう感じる。

「兄たちのおかげで戦後70年間、平和の中で暮らしてきた。これほどありがたいものはない。わしらは恐ろしい戦争体験をしたから、戦争と平和を比較できる。わしらが体験したところへ二度と戻らせたくない。そのために、今の平和は兄たちがいたから」と伝えていかないといけない。

中西少尉はほかの特攻隊員がそうであったように、護国の使命感だけでなく、両親、兄弟、恋人、教員ら自分と関わりのある手ての人の思いを背負って出撃、突入したのである。少尉の思いは女性の吊辞にあるように、永遠に引き継がれていかなければならない。

四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか